

## あしがき（委員の想い）

2年間、会議の運営に関わった委員の感想などをまとめました。

---

次世代育成支援対策地域協議会から引続き委員を務めてきました。今回の会議は、子育て当事者が委員として参加し、発言も多く、自主的な打合せをしたり、積極的な姿勢を強く感じました。

葉山の人口、その構成、そして環境が、現在の子育てのモデル地域として、県ひいては日本の方向性を見出せるのではないかと常々思っています。情報過多の殺伐とした社会、子どもに関する陰湿な事件など子育てをするのに消極的にならざるを得ない昨今です。

私たち委員は真摯に議論し、わが町を子育てしやすい町にしようと努力してきました。議論半ばの面もあるかもしれませんが、現実には子育て中の方が多数いる現状をみると、この会議から提案された実行すべきこと、実行可能なことをまず実行に移し、問題が発生した時点で逐次解決するという方向に進むべきだと思います。

子どもたちは成長し、明日のわが町を背負ってくれる人たちです。先延ばしにしないで、まず実行あるのみ。私たちの宝を地域のみんなで育てたいものです。

---

委員になって、はじめは何をするのか、何をしたらよいのかもわからず、毎回送られてくる多くの資料に目を通し、会議や資料に出てくる聞きなれない言葉を理解することからのスタートでした。

各委員（前委員）の皆さん、町の関係者の方にも恵まれ、会議以外での勉強会、イベントと一緒に参加し、多くの協力と関わりをもてたことがよかったです。そして、町と町民が同じ課題に取り組み、どう解決していくか話し合う中で、発想豊かな考えや個々の得意分野、経験談がたくさん聞けたことが、私自身とても勉強になりました。町民の方たちは、この葉山町にとって大事な財産だと思います。今後もこの財産の声を出せる場とその声を町政に反映できる場をみんなで作っていく必要があると感じました。

---

今までの型どおりの会議とは違い、自主打合せで会議だけでは話しきれない内容を話し合い、会議主催の勉強会を開催するなど、委員や町民の意見を少しでも吸い上げようという子ども育成課の意欲を感じました。新しい制度をどう生かしていくのか、困っている人たちにどうつなげていくのか、課題はまだありますが、少しでもこの会議で話し合ったことが役に立てばよいと思います。

新しくつくることだけでなく今あるものを生かしながら、また行政だけでがんばらず民間や地域と協力しながら、求めるだけでなく感謝の気持ちを忘れず、そして、地域や現場の声を県や国へ発信して政策づくりに生かしていける、そんな会議であってほしいです。

多くの方との新しい出会いに感謝します。事務局の方々、お疲れ様です。ありがとうございました。

---

子ども・親・育成者みんなが笑顔で子育てできる葉山になるように、微力ながら子育て経験を生かし、次の世代に何か残すような活動になるとよいなと思っています。

実際に会議に参加したところ、当事者である私たちの要望は多岐にわたり、また、地理的な条件による環境の違いも同じ町内で様々でした。それをまとめる行政の大変さもよく理解することができました。この活動を通して、町と当事者である私たちの協働は必須であり、歩み寄り、一緒につくりあげる活動が今後多く始まるとよいと思っています。

---

委員になって感じたのは、皆さんが子どもたちの保育にいろいろな考えをもって参加していることです。今は親も一緒に育っていかないと、悲しい事件や事故など様々な問題が起こってしまう世の中です。残念に思います。子どもを守るためにどんなことが必要か、またそのために大人が何をしてあげられるのかをいろいろと考える機会になりました。

葉山町が将来を担う子どもたちを大事に育てていこうと試行錯誤しているのも感じとれ、よい機会をつくっていただけたと思っています。ありがとうございました。

---

「葉山に来てよかった！」心からそう思えるために、私の無謀な挑戦は始まりました。

「あれがない、これがない」という不満、「こうしてほしい、ああしてほしい」という勝手な要望、誰に話しても「どうせ無理だよ」という答え…。不満を言っても変わらない。あきらめたら始まらない。「どうにかしたい、何かできないか」という思いで参加させていただいた会議です。

まだ何もできていないかもしれませんが。でも今、あきらめから希望へとシフトしつつあります。それは未熟な私を受け入れてくださった町の方とメンバーの皆様のおかげです。ありがとうございます。そして、これからもがんばります。末端の意見を反映させるために。

「できない、やらないの葉山」から「やってみようの葉山」へ！  
「変えること、変わることを恐れない、進化する葉山」へ！期待しています。

ようやく具体的な施策が目に見えてきました。これらの計画案は一見様々なことが叶うかのようにみてとれ、「これが現実に行われたなら、たくさんの親子が救われ、元気になれるのだろう。」と期待がふくらみます。

しかし、本当に親と子に寄り添った有効な支援ができるのは、そこに携わる「人」です。一人一人に必要な支援は何かを、心をかけ時間をかけていかなければ結果は出ません。

これまでの経験から、それは制度によって守られることもあれば、制度によって身動きがとれなくなってしまうこともあります。制度を整えば確実に可能性は広がるとは思います。本当に「親子を支える」ということがどういうことなのかをしっかりと考え、同じ葉山の町で活動する立場の我々が共通理解を深めていくことが大事なのではないかと思っています。また、そのためには、制度は固定的なものではなく、臨機応変に対応できるようなものでなければならないと思います。

計画を立てて満足することなく、それをいかに有効に活用していくかを考え、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。